

[オンライン配信]

LINK-Jシンポジウム

細胞・遺伝子治療

— 遺伝子解析のその先へ —

「細胞」や「遺伝子」は生命を司る基本要素。細胞や遺伝子を理解することは、疾患や老化のメカニズム解明の一助となり、治療法の開発や健康長寿の秘訣を知ることに繋がります。

そこで今回のLINK-Jシンポジウムでは「細胞・遺伝子治療」に焦点を当て、細胞という原点を対象にした最新の研究や、昨今実用化が進み、我が国でも国産製品が承認された遺伝子治療などについてアカデミアや産業界から幅広くお話しいただきます。

LINK-Jシンポジウムとしては初めてのオンライン開催となります。どこからでもお気軽にご参加ください。

日時
2020年6月3日(水) 13:00~
17:30(予定)
日英同時通訳あり

主催

一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン(LINK-J)

後援

経済産業省 / 厚生労働省 / 文部科学省 / 東京都
国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)

参加費

LINK-J会員 ▶ 無料 非会員 ▶ 500円

参加登録

事前登録いただいた方には、メールにて
オンライン聴講用のURLを送信いたします。
聴講をご希望の方は必ず事前登録くださいますようお願い申し上げます。

URL ▶ <https://link-jcellgene2020.peatix.com>



LINK-Jシンポジウム

細胞・遺伝子治療

— 遺伝子解析のその先へ —

※本シンポジウムは、日英同時通訳にて行われます。

13:00

主催者挨拶

岡野 栄之 先生 LINK-J 理事長／慶應義塾大学・大学院 医学研究科 委員長／慶應義塾大学医学部生理学 教授

13:05~

基調講演 細胞 老化と疾患メカニズム

米田 悦啓 先生 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 理事長

〜〜 休憩 〜〜

14:10~

講演1 細胞 Human Cell Atlas

Piero Carninci 先生 理化学研究所生命医科学研究センター 副センター長

14:35~

講演2 T細胞受容体レパトア解析・単一細胞遺伝子発現解析技術のがん免疫療法への応用

松島 綱治 先生 東京理科大学生命医科学研究所 教授／イムノジェネテクス株式会社 取締役

〜〜 休憩 〜〜

15:05~

講演3 国産新規ゲノム編集技術 CRISPR-Cas3

真下 知士 先生 東京大学医科学研究所 教授

15:30~

講演4 核酸・遺伝子治療 遺伝子治療における企業の取組み

山田 英 様 アンジェス株式会社 代表取締役社長

15:55~

講演5 日本における遺伝子補充療法の開発

廣瀬 徹 様 ノバルティス ファーマ株式会社 取締役 グローバル医薬品開発本部長

〜〜 休憩 〜〜

16:30~

パネルディスカッション

17:30

モデレータ 岡野 栄之 先生 LINK-J 理事長／慶應義塾大学・大学院 医学研究科 委員長／慶應義塾大学医学部生理学 教授

※登壇者と内容は予告なく変更になる場合がございます

LINK-Jシンポジウム

細胞・遺伝子治療

— 遺伝子解析のその先へ —



岡野 栄之 先生

慶應義塾大学医学部卒業。医学博士

慶應義塾大学医学部助手、大阪大学蛋白質研究所助手、米国ジョンズホプキンス大学医学部研究員、東京大学医科学研究所助手、筑波大学基礎医学系教授、大阪大学医学部教授を経て2001年より慶應義塾大学医学部教授（現職）、慶應義塾大学医学部長（2015～2019）、2019年より慶應義塾大学医学研究科委員長（現職）



米田 悦啓 先生

昭和56年に大阪大学医学部を卒業後、昭和60年に大阪大学大学院医学研究科を修了し、医学博士号を取得。その後、大阪大学にて、細胞生体工学センターや大学院医学系研究科などの教授を歴任後、平成23年に同大学院医学系研究科長・医学部長に就任。平成25年3月に大阪大学を退官。同年4月に独立行政法人医薬基盤研究所理事長・研究所長に就任し、7月に大阪大学名誉教授の称号を拝命。現在は国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所理事長を務める。

受賞等：平成21年度日本医師会医学賞 平成25年度武田医学賞 平成27年度紫綬褒章



Piero Carninci 先生

Born and educated in Italy. He moved to RIKEN in 1995 and has been the Deputy Director of the RIKEN Center for Integrative Medical Sciences since 2018. He has developed transcriptome technologies including CAGE, which has been broadly used in international projects, FANTOM, ENCODE and HCA, identifying non-coding RNAs as the major output of the mammalian genome and providing comprehensive maps of the mammalian promoters.



松島 綱治 先生

昭和53年3月 金沢大学医学部卒業

昭和57年3月 金沢大学大学院医学研究科修了（分子免疫学）医学博士

昭和57年～平成2年 米国NIH留学

平成2年～平成9年 金沢大学がん研究所薬理部教授

平成8年～平成30年 東京大学大学院医学系研究科分子予防医学教授

平成30年～現在 東京理科大学生命医科学研究所 炎症・免疫難病制御部門 教授

東京大学名誉教授

日本免疫学会 功労会員、日本炎症・再生医学会 名誉会員

国際サイトカイン・インターフェロン学会 終身名誉会員

専門は炎症・免疫学

細胞・遺伝子治療

— 遺伝子解析のその先へ —



真下 知士 先生

大阪大学大学院医学系研究科附属動物実験施設准教授、同共同ゲノム編集センター長を経て、東京大学医科学研究所実験動物研究施設長、先進動物ゲノム研究分野教授、同研究所ゲノム編集研究分野教授、奄美病害動物研究施設長に就任し、現在に至る。

主な研究テーマは、国産の新規ゲノム編集技術CRISPR-Cas3を開発し、ヒト細胞療法や遺伝子治療への応用研究を行っている。またゲノム編集技術を利用して、疾患モデル動物や新しいヒト化動物の開発研究を進めている。



山田 英様

三菱化学株式会社、株式会社そーせい、タカラバイオ株式会社を経てアンジェス株式会社代表取締役社長就任、MyBiotics Pharma Ltd. 取締役、Emendo Biotherapeutics Inc. 取締役、Barcode Diagnostics 取締役。核酸・遺伝子治療の研究開発に携わる。



廣瀬 徹様

1984年3月、金沢大学大学院薬学研究科修士課程修了後、北陸製薬株式会社にて医薬品の研究開発に携わる。2004年5月よりノバルティスファーマ株式会社開発本部にてプロジェクトマネジメントに関わり、2011年1月より開発本部長（現職）。がん、循環器・代謝、呼吸器、中枢神経、免疫・肝臓・皮膚、眼科など幅広い領域の医薬品を開発。学術博士。